

ゆたか俱楽部 よもやま話

vol. 16

クルーズご意見番“初代クルー・マスター 松浦睦夫”が語る

したのが郵船クルー・営業担当の田中三郎氏でした。彼は貨物船などの航士や商船専門学校の教官も務めていた方です。「実は私も同じことを考えていました。でも飛鳥は大きすぎるからできな

い。ふじ丸だったら可能性がある」と

2006年（平成18年）5月、ふじ

丸で江田島チャータークルーズを実施

しました。

戦前、江田島といえば、海軍兵学校を意味した言葉です。1876年（明治9年）に大日本帝国海軍の将校たる士官、つまり幹部候補の養成を目的として創設され、イギリス王立海軍兵学校、アメリカ合衆国海軍兵学校とともに世界三大士官学校のひとつにも数えられました。総計1万2000余名の卒業生を送り出しています。

前身は海軍操練所で、明治2年に東京築地にありました。学生たちは夜になると寮を抜け出し、銀座に遊びに行ってしまうと上層部が怒り、早々に移転計画が持ち上がりります。わずか7年で、軍艦の錨泊ができる入江があり、気候が温暖で安定していて、文明と隔絶いわゆる婆娑の空気に汚されず、教育に専念できる環境である、瀬戸内海の広島湾の島の一つ、江田島に移転されました。

戦後は、終戦後11年間にわたり、米英連邦軍などが進駐、施設を使用し

ましたが、1956年（昭和31年）に自衛隊が施設を引き継ぎ、翌年から海上自衛隊幹部候補生学校、第1術科学校になっています。旧海軍の時代に建設された建物が現在も数多く残されており、日露戦争で東郷平八郎の参謀として連合艦隊を勝利に導いた秋山真之を描く司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」がテレビドラマ化された時の撮影場所としても使われました。

現在、皆さんのが旧海軍海兵学校を見学する時は、正門で受付をするのですが、ここは本当の「正面玄関」ではありません。江田島湾の海に面した校庭から突き出ている浮き桟橋「表桟橋」が真の正門で、ここから入れるのは、皇室など特別な方だけになります。かつて、兵学校卒業生は軍楽隊の演奏の中を盛大な見送りを受けて、ここから沖に待機する練習艦隊に乗り組み、巣立つて行きました。この伝統ある卒業式典は現在も続いている。

私が江田島チャータークルーズを企

画した時、この「本当の正門」からお客様に入島していただきたいと思い、相談

自衛隊初の海外実務となつた、湾岸戦争後の自衛隊ペルシャ湾掃海派遣部隊（1991年）の指揮官（海将補）だった方です。落合氏の父上は有名な方で、太平洋戦争での沖縄戦で最後の電報「沖縄県民斯く戦へり」を送った大田実海軍中将です。大田中将は、昭和20年6月6日午後8時16分に海軍次官宛てに、沖縄県民が陸海軍の邪魔にならぬよう困窮を受け入れ、日本人として奉公し、よく戦い抜いた様子を伝え、最後に「沖縄県民を後々まで特別のご配慮して頂きたくお願ひする」と打つて命を絶ちました。この打電文は米軍にも傍受され、英訳された当時の資料がアメリカ国立公文書館に保存されているそうです。落合睦氏の苗字が違うのは、10人兄弟の三男坊で、戦後に母方の親類へ養子に入ったからです。

なぜ私が落合睦氏について詳しいか



海上自衛隊第1術科学校（旧海軍兵学校）

メントとしてお招きした歌手の田代美代子さんのお陰です。田代さんはシャンソンやジャズを学んだのち、和田弘とマビナスターとデュエットした「愛して愛して愛しちゃうたのよ」の大ヒットや「小川宏ショウ」の司会でも知られています。自衛隊コンサートで全国をまわつていた関係で落合睦氏と面識があり、船内コンサートのトークで大田実氏のことを話して、私も認識を深くしました。船内では落合氏に「江田島の今昔」について講演していただきました。

「大和ミュージアム」がちょうど1年前に開館したというタイミングも良く、めでたく実現につながりました。さすがに、ふじ丸を接岸することは叶わず、通船で「表桟橋」から入らせていただきました。多くの方々のご縁で素晴らしいチャーターカルーズができ、感謝の気持ちでいっぱいです。誌面を借りて改めてお礼を申し上げます。

日本のクルーズ略史

1989年 「ふじ丸」就航

2006年 ゆたか俱楽部「ふじ丸」で江田島チャーターカルーズを実施